

德純弟禧解



五



家藏
印

段モ馬ニ乘ル心得ヲ述テ一切道ヲ
本トセリ

徒然草
解卷五

毎ニナリ珠トアルハ悪シ

印

吉田よりる系乃尸侍ハ馬毎ニナリ珠トアルハ悪シのなり

人の力チカラありそふべしソコキと志す人チカラの多き馬とバ

まひもく足ツツキで強ツツキとてあよツツキりまツツキをツツキと知ツツキべしツツキはツツキ響ツツキ

鞍ツツキ乃ツツキぎツツキにあツツキやツツキりツツキきツツキるツツキやツツキあるツツキとツツキんツツキてツツキふツツキようツツキふツツキるツツキ

あツツキらツツキんツツキとツツキまツツキるツツキとツツキまツツキふツツキべツツキしツツキけツツキ月ツツキ急ツツキとツツキ忘ツツキまツツキさツツキらツツキんツツキ

るツツキ系ツツキとツツキいツツキりツツキ也ツツキ此ツツキ秘ツツキ蔵ツツキ乃ツツキるツツキりツツキなりツツキとツツキりツツキまツツキ

よツツキろツツキのツツキ屋ツツキのツツキ人ツツキのツツキよツツキまツツキひツツキ不ツツキ堪ツツキなりツツキとツツキいツツキらツツキもツツキ堪ツツキ能ツツキのツツキ

非ツツキ家ツツキのツツキ人ツツキナツツキリツツキナツツキリツツキ不ツツキ時ツツキ必ツツキずツツキらツツキるツツキがツツキ我がツツキ家ツツキノツツキナツツキリツツキ

つツツキらツツキんツツキそツツキらツツキくツツキくツツキ甘ツツキぬツツキとツツキひツツキとツツキ入ツツキりツツキ角ツツキ由ツツキ心ツツキ

我家ノ子其流ノ器用ナル者云

我家ノ子其流ノ器用ナル者云

のひと〜ぬなり是ヨリヲ別テモ其ノ事ヲ大ニカクルノヨキヲ云藝能シヨサ不化の〜ぬなり

大なるあつまひ心づるひも。とらた〜しては〜ぬ

ふハ得トのトなり。う〜にしてりまきゆかぬふハ

失シのトなりト。名上思シ其レ事ヲツシ三ニ大事カクニ終自得スルヲ曾子魯鈍ニシマシ
道ヲ得ルモ是レ亦大上器用ナリ上テ其レ事ヲツシ六ニ終道ヲ失フ

武者モ子孫法師にシて。学ガ四モして因果ノ理も

あり。祝セツ經キヤウちンどーして。世セワラズスキハニ便リ任セヨトシ
万業ニ便ル事

いひ多レバ。彼レ乃ハまに祝經師ヨもんためは先

るよ糸チもらひけり。輿コ車キもみぬ方の守師ヨは徳

せらまん時。もちどじうへりたをせまんよ。前テリ

どりもて落ナんハ心ウらうへとたもひらり次

よ仏事ノ後。酒ちどとしら事あんよ。法師

の善トハ能チもさハ檀那トさ備ぐく思ふべしそ

檀那 書言古事云僧道亦施主曰シ 早奇トシいふと紙ちらひ

り。二ノらどやうくさらひよ入ればいふくさらひ

くそうて嗜ケる程り。祝經ちらうべきひゆナト

てらいまりにらり。けは法師のまにもあらぶ世られ

んちどてけるらり。若さきらどハ。決まりようらて方と

きそて。大ちらるるも成シ。能シもしはまし同とせ

じと。初末スくあらまらひる心ようきちらり。

世とくらのよ思ふておをとらうつ。先さしらりらり。

東山ノ行ツキタレハ

一時的の悔意 今日其ノ一事ヲ悔意ニシテ
 空ヲ目ヲ送ル我ガ齡ヲ連テ暮トシテ一生悔意ナリ
 一と必ちもさんと思フ。他のものやうなこともいひ
 べし。ず人のあざむきとも恥べし。是謂世ノ朝ヲ不顧一大なる水ノ譬言
 人あまゝいふ此よりそのが善の抄ニ有リ
 まそのの落 善の抄ニ穂ノ長チ一尺計
 凡ヲ云也万葉ニ十寸鏡トカ九類ノ
 まそのの落 善の抄ニ麻ノ心ナリ
 中そ。あるもの。まほらめ
 まそそののまそた

落ノ穂ノ麻ノ糸ヲラリカケタルヤウナルヲ云
 又無明抄ハは外ニまほらめの落ナリ
 善蘇抄ヲ畧ノ云ナリ色ヲカキ落クトナ
 登連法師 詞花集ニ
 世中ノ人心ノウキ雲ニ雲カケテ有明自
 其外十載ヲ古今新勅撰ホノ作者ノ

一と必ちもさんと思フ。他のものやうなこともいひ
 べし。ず人のあざむきとも恥べし。是謂世ノ朝ヲ不顧一大なる水ノ譬言
 人あまゝいふ此よりそのが善の抄ニ有リ
 まそのの落 善の抄ニ穂ノ長チ一尺計
 凡ヲ云也万葉ニ十寸鏡トカ九類ノ
 まそのの落 善の抄ニ麻ノ心ナリ
 中そ。あるもの。まほらめ
 まそそののまそた
 どのさるやあ。このべの
 聖なるのと侍人知らうと
 降りけること。登連法師
 座は降りけるが。あめありけるよ。義うさやあ。か
 一と必ちもさんと思フ。他のものやうなこともいひ
 べし。ず人のあざむきとも恥べし。是謂世ノ朝ヲ不顧一大なる水ノ譬言
 人あまゝいふ此よりそのが善の抄ニ有リ
 まそのの落 善の抄ニ穂ノ長チ一尺計
 凡ヲ云也万葉ニ十寸鏡トカ九類ノ
 まそのの落 善の抄ニ麻ノ心ナリ
 中そ。あるもの。まほらめ
 まそそののまそた
 どのさるやあ。このべの
 聖なるのと侍人知らうと
 降りけること。登連法師
 座は降りけるが。あめありけるよ。義うさやあ。か

敏則有功

論語陽貨篇アリ

一切の事速に其功アルト云

一大事因縁 法華經方便品諸佛世尊

唯以一大事因縁故出現於世

一大事此妙法ノ理ヲ示スリ 因縁感

應ト云心ナリ然六諸佛ノ出現ハ只法花

説云シタメノ衆生利益ナリ其ノ理ヲ一心ニ

工夫ノサトリ知レトナリ

因縁とぞたむべり

引ふはま事とちうんとたむん

お来てまぎれ

めぬ人のあり

らぬるがりのふひぬ

となきてやとるるまきりはいと心らる

敏とたの具云

そ。諸経といふ久にも傳る

なる。けいそをいふ

あつけるやうよ。一大事の

思に不依

故障

約束せ又入并

世間煩多六ヶな

何ノ事モ有レキ

よさゆいさぬ。一とせの

もかこのぞ。一生乃向も又

らゆれづひゆとたりあま

るもあまはひよく。不定とらぬ

るのぞいにてらぬ

此段人間世ノ不定ナリヲ云テ赤ハ又一物ノ自ラカスモアトキテ人生ノ必ス死アテ

妻といふものこそたのしみ

いはもひとりごとをてあて

がくむこにちうぬとも。又

おほちと笑つまじ。妻下よ

ごちん。 字ニ替ルモノキナリ なま女とよしとあひし

てこそそいぬ。 賤 もととあひし。

女ちうべ。 良ノ字ニイナラセテ心ナリ け男とぞらうらめ。 ホカ あが佛とまも

りぬ。 愛を女ニ擬シハ世チニミツク家業ヲリ行ヤス けおかく。

あつ 我佛く女男ヲガテ我本カレゾクヲ云 又悲哀談カ曰妻ニ可畏ルニアリ少時視之

又生菩薩ト云 是トナハ女佛ト云ヘカ 子 ちまどいでまそくづま

ヨリヲモハルニトナリ ちまどいでまそくづま

モヒ ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

ちまどいでまそくづま

あつる人とわちぐらふなりて。かどあつる人あり。

是ヨリ右件ノイヲ結テ論ス 愚者乃中の戯に。あつる人のあつてはけさぬくのわ

あつる人 其ノ塵言ヲ云フ根ヲ知り名人ノ ち如ク心ぬ又人成心ぬテモ 知又体ヲスルナド

これらくあつるぬべし。海してあつるちん人の。

海どるらわらうとあつること。掌の上の物とあつる。

但ちうの推量して。佛法まてあつるあつるべき

にあつる。佛愚痴ノ流生ヲ奪フニサシクノ方便アル其レモ又必ス偽ト雖云より

あつる久あつるあつるあつる。小社よ大はま

る人。本造の地と田の中乃あつるあつる。

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつる。

衣の男二三人があつてあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。久我内大臣あつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

東大寺 聖武天皇御建立なり大和あり

東大寺は神輿あつるあつるあつるあつる

神輿 東大寺の鎮守八幡大菩薩ノ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 八幡八聖武ノ御宇宇佐

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 奉ルナリ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 是モ同ク八幡宮ナリ嵯峨

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 天皇ノ御宇弘法大師宇佐ノ勸請

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 至五ノ鎮守ナリ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 昔山門ナリ僧徒天子ハ望アリテ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 其ノ望勸請ナケル六日吉ノ神輿ヲ供奉

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 内東ヘカキヨシ例平家物語ナリ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

神輿 随身ヲ至ク之非虚ヲ追ヒ

あつるあつるあつるあつる。あつるあつるあつるあつる

南都ノ衆徒モ又此ノ例多シ爰モ東大寺
若宮ノ神輿ヲ京へ入レ奉リテ先ツ東寺
若宮スヘ奉リテ天子ヨリ源氏ノ公卿勅
リテ

土師ノ... 定實ノ後二位太政大臣
... 傳十七... 梁孝王得賜... 奉
... 言... 止行人ヲ也
而古曰... 武官ト云兵仗

兵仗... 武官ト云兵仗

小山抄... 公はノ作... 山抄才五... 大嘗會ノ
御襖ノ所... 行幸ノ儀式如常... 無警蹕
鈴奏等至... 河原頓首

西宮の祝... 西ノ宮元大は... 明公作り
河原... 昔ハ内ノ... キモサキヲラヒケリト云
用心ノ為ナリ変化ノ物モサキ声ヲラヒト云
ハハ西宮元大は神泉苑ノ良角ニテ変化
物ニアレケルニモサキ声スル時ハ引入ケルナリ
諸寺の僧... 以下六七段難知ヲ述

○昔ハ定額ノ寺上ノ國ノ寺枚ツ定メ置
同ノ定額ノ僧上ノ一寺毎枚ツ定メテ僧
ヲ置ル是ヲ定額ノ僧ト云

定額ノ額ハ小学陳選ノ注ニ數也トアレバ
カハシ定ムルト云一カ
十八史畧才七元朝始テ天下賦稅ヲ定
永為定額アリ定又同意也

女嬬... 内侍ノ... 書ノ... 女官ノ
下ニ女嬬アリ... 人ト枚ツ定メ掃除指
油ナドノ役ヲツトムル者
延喜式五十卷アリ右大日志平初奉テ
抄ヲ集メ撰ス処ナリ

揚名介揚名目... 源氏多顔卷出ツハ外
... 三ツガヒツツ林ノ卷ニト井モノ袋ヲ
合テ源氏三ツ大車ト云トカヤヲ口授ツル
政事要略... 百冊卷アリ惟宗ノ允亮撰ス
記ハ公勢交替ノ糺彈ノ雜更至要臨事雜
事等

...

... 記... 源氏多顔卷出ツハ外

... 傳十七... 梁孝王得賜... 奉

... 武官ト云兵仗

... 山抄才五... 大嘗會ノ

... 行幸ノ儀式如常... 無警蹕

... 河原頓首

... 明公作り

... 昔ハ内ノ... キモサキヲラヒケリト云

... 用心ノ為ナリ変化ノ物モサキ声ヲラヒト云

...

...

...

...

...

...

...

...

...

横川 近江國坂本ノ邊ニテリ

行宣法下 坂本ノヤクキ上云云居住ニテ

キ物語ナトシタルヲ井蛙杓見ヘテリ

呂律 陰陽十二調子ノ中六呂陰ノ音ニテ

和ラカナリ 六律ハ陽ノ音ニテニク上カクニ

單律 單ハヒトトヨメ六律ニヒトニテ絶ニ

音ナシト云フ也

横川 近江國坂本ノ邊ニテリ

唐土ハ呂ノ音ナリ

和國ハ單律ノ音ナリ

て。呂此音ナリト云フ也

禁庭ノ滿ナリ

野行ハ系カス。河行ハ系ヒス。

仁壽殿 拾芥云云殿ハ九間四面

遐凡下系ノ率於陰外ナルハト系内ナルハ退凡

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

下乘ハ王車馬ヨリ下美ナリ

退凡ハ九人ヲ退ルベシナリ

十月と云ふ月は...

難知ナリ或ハ冬十月伊時丹ノ萌...

月ト云云或ハ諸神出雲國ハ集リ...

テ神有月正神月正云云ハ兼好吉田ノ...

生テ云云凡物ト云ハ是以不審ナリ又...

極陰ノ月ト云ハ一陽未復ノ月ト...

ノ毎キ月ト云フカ云リ

大津云ハあつゆ...

云フナリ但兼好時代ニ此世話アリ...

諸社乃幸 拾芥云云松尾寛和元年...

月十四日後三院此野寛平元年十月...

一日一余院日土三運文三年十月廿九...

日廿廿五ノ後三院ハ行幸ノ明レ年...

ラセ玉ヒテ又ノ年萌御ナリカウ...

ハ伊勢ナリハ云々...

月後社乃幸...

例も後...

例也

教 竺明室一名歩又山谷詩竺明 蓮華又日本紀神代上天照本神 夏千韻之教与五百 物方今空穗 如物見

世の中さう天地不生 天地不生之氣度所

大己貴天下 大己貴天下短管

分神 諸木 餅テ フウ ムエ ヲラ 除

馬ヨ ヲシ ヲシ ヲシ 洛陽ハ 山ナ リ

者督 長檢 非違 使使 聽披 官官

遣諸 國也

終て のら 今の 世の 封と

犯人 犯罪 者ナ リ

右罪 之輕 重ヲ 考テ 答ラ 以テ ヲ

和名 唐令 曰官 大頭 二分 小頭

一分 半云

昔也 三死 刑ニ 行ハ マニ 皆ヲ 以テ 教ヲ 究テ

拷問 五并 拷打 也ト ヲリ 罪人 ヲク リツ テ

打下 木ナ リ

大師勸 請此 段八 叡山 大師勸 請云

何ノ 大師正 知レ ザル ヲテ 慈惠 ノト 云フ 明

邪又 古ノ 聖代 二起 請依 テ政 ヲ執 行ル 一ハ ナ

カリ レド ヲテ 云フ

慈惠 僧正 元亨 紀登 曰良 源姓 未津

氏江 州淡 井郡 人也 延元 十二 年九 月三 日

主上 上上 叡山 師事 理山 延長 六年

礼意 意意 尊壇 受戒 天元 四年 為大 僧正

兼法 務聽 贊車 永觀 三年 正月 三日 滅年

七十 四賜 謚慈 惠也

朝廷 ヲハ 慈惠 ト計 謚ア ラシ 山門 ニシ テ大

師上 ト云 ト

勅勅 勸乃 而一 教々 能法

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

今一 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

ハ段モ今ヤウノメツラキ一ラ戒ム

後集五

人の田と経我物ノ上ヲ論スル者一と云ふもの説ノ字ハうまはけて針丈ニ負テ解解くさる。ま

田田はりてと云ふとて人人はつりつりきる先道は先道下人氏論論田行

乃田と云ふりしてゆくと全本ヨク云是ハ経経のよあはあは

いふくつといひけま解ぶ解あのみま解まふとてしる

べきとつりなま解れま解ひ解とせん解とてま解るもの

ちればいげ解くま解か解ら解ん解ら解ぞ解い解ひ解ける解解解

いとお解し解ら解り解ハ段甲夫ノ解ナ産理リノ面白サニ爰ニ記ヌナラン

嘆嘆子嘆も嘆ハ嘆古嘆今嘆ハ嘆子嘆も嘆ハ嘆昔嘆の嘆物嘆なり嘆と嘆バ

う嘆い嘆ひ嘆て嘆い嘆つ嘆な嘆ら嘆る嘆も嘆と嘆も嘆

あ嘆ら嘆ま嘆は嘆古嘆今嘆ハ嘆子嘆も嘆ハ嘆昔嘆の嘆物嘆なり嘆と嘆バ

難難知難ヨ難シ難ナ難リ難兼難好難ハ難何難ノ難書難ヲ難見難テ難如

此此ち此タ此リ此ケ此ル此ニ此ヤ此招此魂此ノ此法此ヲ此行此フ此ハ

家家宗家ニ家今家モ家有家コ家ソ家招招魂招ハ招人招玉招ノ招飛招時招ニ招シ招テ招返招ス招ハ

宋宋玉宋カ宋招宋魂宋ノ宋作宋楚宋辞宋ナ宋リ宋礼宋記宋ノ宋復

トトアトルトモト此トトトハト又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

今今ノ今世今ニ今侍今ハ今六今十今卷今アリ今講今冠今大今は今撰今之今共

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

又又家又持又撰又之又ラ又ハ又云又ハ又リ

○文選第六王文字意カ序トスル此美檢

一

廻鶻國 通鑑ノ注ニ薛延陀より魏ノ時

唐ノ車師ト云唐ノ徳宗ノ時改テ回鶻

大明一統志ニ長安ヲ去ル八千二百里トシ

伏して候ふありて。そのまが國の樂と奏せ

たり

平宣時 大佛陸奥守也 小条ノ五郎時

忠後ニ改ニ宣時 系圖云時政時茂朝宣宣時

平宣時 廻鶻老のちらび

り。廻鶻國として。えひとの

こころもあがり。を夷侯

り。伏して候ふありて。そのまが國の樂と奏せ

たり

平宣時 大佛陸奥守也 小条ノ五郎時

忠後ニ改ニ宣時 系圖云時政時茂朝宣宣時

平宣時 廻鶻老のちらび

り。廻鶻國として。えひとの

こころもあがり。を夷侯

り。伏して候ふありて。そのまが國の樂と奏せ

たり

平宣時 大佛陸奥守也 小条ノ五郎時

忠後ニ改ニ宣時 系圖云時政時茂朝宣宣時

平宣時 廻鶻老のちらび

り。廻鶻國として。えひとの

こころもあがり。を夷侯

以段天下ヲ柄ヲ抛人ノ儉約ヲ守之ニテ有難ク是テ記ス者ナリ誠此ノ時頼元代
中ニ在政道正キ人ナレハ官而本不騎行跡奉テ可奈

源頼義 東鑑才一云後冷泉院時伊藤源
源ノ頼義奉勅代安徳貞任時有丹波
之旨康平六年八月潜勃請石清水建

瑞篋當國由比ノ卿今号ニ永保元年二
月陸奥守義家加復治承四年十月

頼朝点小休卿之北山攝宮廟被
遷之ヲ

一發良應上テカニミヤケニミナリ又モララス凡
三献ノ事ニテ

三献ノ事ニテ

史婦昔其主人ノ馳走ヲ為一家妻
出カト見ヘタリ十八史畧宋太祖雪中
功臣趙普カ家ニ幸シテマ時普カ妻酒ヲ

行ト云例モアリ
足利の漆物 足利ヲ漆出ス所ノ物也
古今云加賀漆ナド類ナリ

寂の寺入道露露乃社系
の次ノ足利也

久先使とつりて立
いさきるにありて海

三献ノ事ニテ

陰弁僧正ありて方乃人
マて座せり

年毎ノ孫系足利の漆物

最明寺ノ辞

心りちくひとトサレキマバ

て。きりその物三十ありて

其。後よほりいされり

侍ノが燈り侍也

或大福者者のいさく

に徳をほけへきなり

とあるのまじり人

つまらつひと修めとん

にあつひ人同常任のた

善業ヲ行欲するなり

是第一の用なり

持人の持論語注及語辞よりん
財ヲ好ハ我利モヲ叶ヘタキカ為ナリ

とあるのハ形ひとら
が故なり。おれあまごどもも人ども。後あまごどもも
ひざしむの金く貧者とおもひ。何とも樂とせん
けしきしていふ。人間の望とて貧とて富とて
べしむとてのえり。欲と成してまひとせん
癰疽ハ二字ハ腫物ナリ。變ノ聲ハ
癰疽ヲ病人ハ甚シク熱ん故冷水ヲ洗
テ樂ト思ハレ唯余モヨリ見ハ患病ヲ此ノ
樂トせんヨリハ錢ナクテ欲チキヲハサルトス
ニ譬フ
とあるのハ是ハ貪テモ欲たれ知
テハ貪富同ジトクモ多欲ナルガ故ニヲ財ヲ

樂トス我心ガホリトキ時ハ火富ウラヤナ
キナリ是ヲ知リ富トシト云ヘリ

欲く無欲なり

六究竟 天台家ノ六即ノ中ニ究竟ハ妙覺ノ位ニテ如来地ナリ理即ハ佛法ノ名字ヲモ
知ラヌ凡夫体乃至畜類ト佛性ヲ具スラテ受ノ心ハ究竟ハ理即ニトシキト云ヘハ右長者ニハ
如クニ大欲トハ每欲ニ似タヤウナレ畢竟ノ処ハ究竟ト理即ト替タ如ク天地各別ナラシ
云述ナリ。此段前ニ長者ノ辞ヲ述ヘ次ニ己ガ本意ヲ述テ財ヲ分ボリテ樂トスルハ癰疽ヲ病人者
水ニ洗テ樂トスルト齊ク每病人ノ上ヨリ見ルトキハ愚カナルガ如ク每欲ノ心ヨリ見ルトキハ淺猿記ス

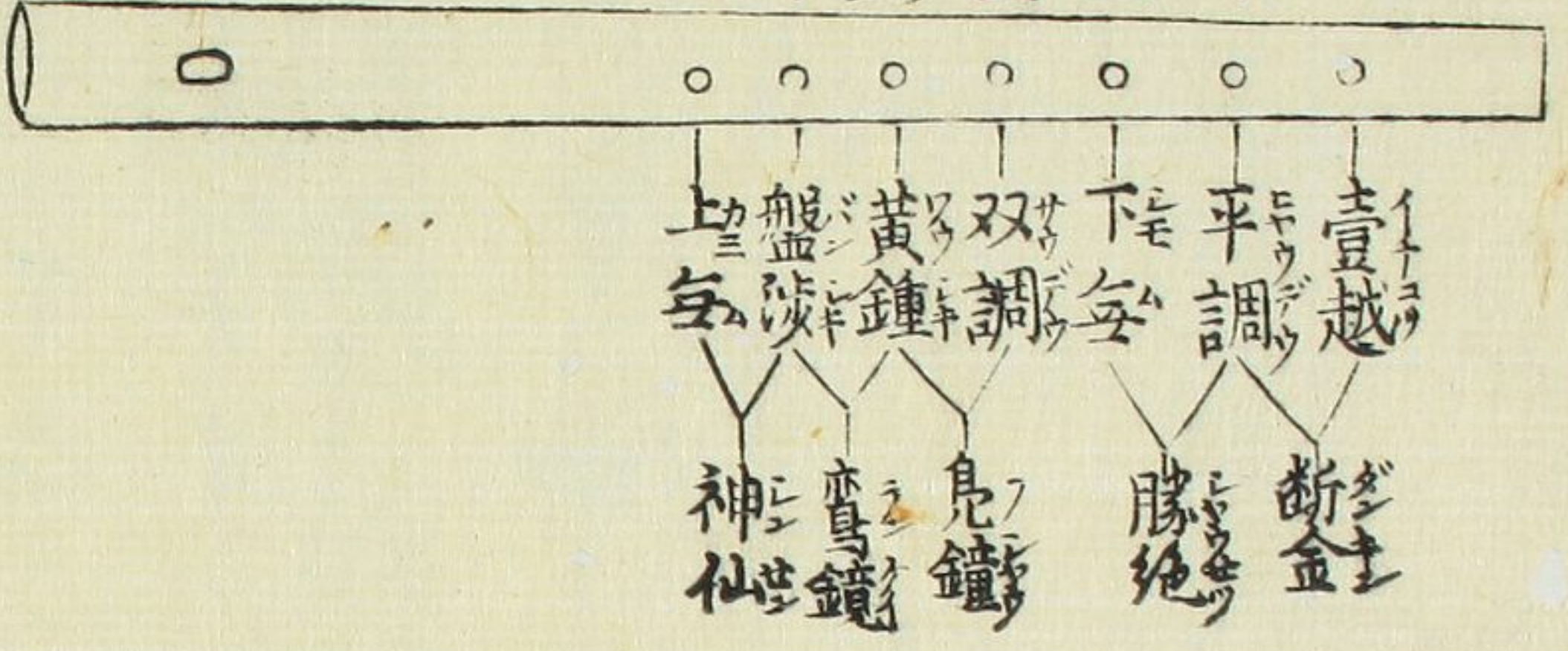
狐は人よりひきくものなり。堀川ぬりて舎人が
ぬるる是れ狐よりくる。仁和寺にて。衣本ちるの
堀川ぬりて久我ノ門基具ノ太政大臣号堀川
本寺 仁和寺ヨリ少方野アリ今モ本寺野
云此ハ十九ルベシ

ととる下法師は狐三
とぬまそつれとせぐる。狐二走をほく。ひらのほ
まこころぬ。二いよげぬ。法師ハあまこくられらぶ

とぬまそつれとせぐる。狐二走をほく。ひらのほ
まこころぬ。二いよげぬ。法師ハあまこくられらぶ

後五
三

下 五 上 中 六



如此七ツノ穴間ヲクル
同クレテ然モ五ノ穴ト上ノ
穴ト間ニ調子ヲ持ヌリ
奏ヲ吹得ルヲ雅ト云

尚ヲ十二律ノ傳授ナクテハ雅知ラズ

他日ノ系茂ガリ作ハハ笙ハ去クバおせせておらる

系茂 大津氏八幡ノ山ノ井上云所ニ住地
下ノ樂人ナリ

あゝべおせせて 笙ハ管多シト云ハ凡ソ
く洞子ヲ合テ玉ニ吹ヨキナリ

ふんちりふもてゆく地もまじつ穴ごとく口傳の上ニ性

習とくまてふといふるの五の穴のそりうまらる

ひとまののくとがらしも定じへらびあしあけらる

この穴もさうらようび。上もつらまじも吹あらる

呂律のゆれはつら人のとがなり。笙のまじりあ

らびとらた 此段七調子ノヲ述ホノ系茂
辞、至極セルヲ云ハリ

何るもさまハ後わさくらもまじも。天もさ乃舞樂

五
三

はざりあや河まきふよりきざりひつるせられり。法ホウ

金剛院の鐘の声ゴウガクまる黄鐘洞なりは段の段ニ次テ洞子

建治弘安乃此也。糸の日の放免カシの法ホウき物モノなり子リ物ナシト云

放免カシ此事此ノ草子ノ口實トナリ松茂ノ祭ナリ

東鑑ニ放免トナル別ノ一トゾカシ

まてちをきりりて。尾髪カシなりカシ

色の井スうさカシころる水干スいカシつカシそカシ秋アキの心ココロちチどトいイひヒてテりリ

さサりリるル。つツのノよヨんンとト。

よヨびビ侍シらラもモ真マコトありアリ

て。志シつツふフちチりリてテをヲ

侍シらラとト考カウるル道ミチ志シらラんン

この心ココロ奇キ

蛇ノ井ニアレタリハツチケレフタニチカハルカ多クニ

道士 職原云檢非違使ノ下志アリ明法

道ノ輩六位時任衛門ノ志即系使宜

肯凡志奉行使廳諸公事之故以爲

道爲其選此子道士。使廳ノ志ト

也尤右志ノ志トナラフ道士ト云

此今日しうこまゆふなりけ比ははあまの。と
と送りて送カるルものなりカシなりカシて。美ミのノとトりリさサ
物とわやくはくそ。左右の神と入りもいせて
いひまふいともぐり

竹谷 祝詞ニアリ

糸糸房 浄土宗ノ名匠ナリニ祝石集ニ

東二条院 常盤井ノ相圓玄氏スルハ

ムスメ子ナリ後保草ノ院ノ后ナリ

竹谷 糸糸房。東二条院へ

追ツ善ゼンりリハ何ナニもモ勝カチ利リ

光ミチのノ志シ言ゴン宝ホウ鑑カン不フ院イン

雅ラ尼ニとトりリけケるル

光の真言 十言經トナリ

寶鑑ニハ羅尼 經トナリ此ノニツ

ノ程ハ其ノ利益多キ一則程中アルト
コソ

ハ。オ子どもいふよかくハ

路けつぞ念仏よりさるるさるるぬまーといふと

尸路もぬぞととれぬ我宗なれぬさそを尸路

りーりつまどしぬく孫名と追極は修

て。巨益あるべしとさる孫又と人ともよびの。何よ

んいふ家そとさうてとりせ孫やいふ尸さん

と思ひて。本程のきりうららにつもてけ言陀

羅尼とバトつらうとぞ尸なれけ

キラホス

このねはる 後家極言程ノ三男九
条前内府基家スリ号三孫

のねはるいよの童名

け君なり。病とくひひけらい今と尸碎さる

け段マズ誤リタリヲ知ラセタル者

海陽師と宗入るぬらりのびりて。ぬら

まうてまきるが。先入てけをのいさづ

ひろきと浅ましくあるぬらぬら

もめいふふとけつらむ。むそをらひとの跡

て。皆もけはけけりあといさめけま。練よあーの地

ともしらうよとらんるの益ちさるる。くふのま

程ちどうへとくべー

多久助 多氏ナリ太氏臣チクハ助ヲ久賢
トナルニヨリ 樂人ナ由ハ段ヨリ下三四

多久助が尸の通憲

ハ段イタツラニ目ヲ悦ムル為空地ヲ好者成

論語萬務自修有全

徒然草

三十五

段ノ物ノ根ハシヲ推知フヲ記ス

道憲入道 少納言入道信西也諸君
遠シタル人ナリ平治元年十二月十三日信賴
逆乱ノ時信西兼テ見天変ヲ知其災ヲ入
大和国多原山自害シ棺ニ死前被瘞
埋土 同月十五日伊賀守光保尋出此所
往進ス即掘出死骸ヲ斬首渡大略被梟
獄門

こすひらそいひける 祿師 世
は藝とほけり 是白柏子 ミラヒヨシ
ううふち後源光行 ニラヒヨシ
源光行 河内中大監物光行 後羽院 小
面ナリ源氏物候 河内かよふ此光行本
ナリ
屯菊 一はも羽院ノ寵愛ノ舞女ナリ

入道 舞乃木の中より 舞女

るりたとえりひていその
祿師 世 といひける 女よと人

てまらせり 志るまきみ干

に 世 へさせひける

羽院の住居しあけ 屯菊

はも羽院の時 住居しあ

司行長 藝古のふりまき

利ける 樂府の内儀義の

番りめされて 七姓の舞

つきにきりぬらうきり

りて 学同好とて 道

後ち羽院ヨリ屯菊が新詠ヲぬむと録
倉へゆラレシは美時同心ナカリ故 源光
を悪クナリテ承久ノ乱ハ起リレトナリ 東鑑
藝古 イニシラカンカフニトヨメリ 亮典
出ツ美ノ学同ノ巻ニナリ
樂府の番 白氏文集三四巻載名新
樂府ナリ右樂府ノ中ニ不審アルヲ義
論スルノ人叔ニ加ルナリ
七徳舞 白氏文集三新樂府ノ家一ハ
アリ此舞ヲ初ハ破陣樂ノ舞ト云シ後
七徳ノ舞ト名ク
文集 長慶集 注曰武徳中天子始作秦
王破陣樂以歌太宗之功業云
又十八史畧曰唐太宗七年宴玄武門
七徳舞 七徳者蓋取禁暴戢兵保
定功安民和衆豐財之義
卷者 元服シタル人シ云

一藝あるものゝ下部

までしりてまきそ不修

せま也 給ふれば。は信濃入后と持持し給ひたり。は乃
長入后今十二卷平家平家物語と作りて生仏といひける。盲目モウモクの
教てくくせあり。さて山門叡山のころ代女行を授けしは

くろり。九郎判官のころり。くろり。知て去のせり。浦冠

九郎判官 多經也。多朝ノ九男。十六九郎。云判官よけ人。檢非違使ノ尉。任せし故。ナリ。檢非違使ノ尉ヲ判官ト云ナリ。

浦冠者 頼朝ノ才多經ノ兄。後五位下。三河守範頼ナリ。

者れり。くろり。あつる。け
る。や。おろく。の。ろり。を
あつる。り。せり。武士の

弓馬乃もつる生仏。ふ必の。の。り。そ。武士よ。ひ。て

く。せ。り。う。の。生。仏。が。生。れ。つ。ま。れ。声。と。今。の。毘。沙。門。の。

公卿補任勸修寺良門十三代ノ孫業。室時長平家物語作者。随一ナリ。有。

ハ。学。び。し。る。カ。ム。ノ。

四八巻。盛衰記。ノ。一。五。二。今。ノ。十二。卷。平。家。八。行。長。が。作。ル。処。是。紛。サ。レ。凡。是。三。巻。往。ノ。不。同。ナリ。

トコ六時礼讚 浄土家へ尋て六時礼讚ハ
晋惠遠法師根源ナリ。其後唐ノ代若
辱六時礼讚ノ倡ノ集記ケレシナリ。然ル
ヲ安ニ安樂ガ作トアル。吳及北ニヤ。又只云

安樂 法然ノ身子ニ住蓮安樂ト云ニ人
アリ。是も羽院ノ時別時念仏ヲ始メ六時
礼讚ヲ唱ヘテ聽向ノ貴賤群集セシニ官
女及心シテ出家セシカ。帝逆鱗ニ住蓮
安樂ヲ罪ニ行ル安樂ハ六条河原住蓮ハ江
州馬肉ニ居ニ切リ

を。と。定。て。声。の。な。り。せ。り。一。会。の。会。佛。の。寂。初。な。り。後

院。院。の。代。より。い。は。る。讚。も。印。く

善。観。房。と。い。ふ。傍。り。と

千。本。念。佛。千。本。の。教。經。ノ。後。教。經。ノ。名。号。ヲ

十五。日。と。い。は。る。教。經。ノ。後。教。經。ノ。名。号。ヲ

千。本。念。佛。千。本。の。教。經。堂。ニ。二。月。九。日。ヨリ

十五。日。と。い。は。る。教。經。ノ。後。教。經。ノ。名。号。ヲ

十五。日。と。い。は。る。教。經。ノ。後。教。經。ノ。名。号。ヲ

法然流義ノ一向専念ノ念佛ナリ

六時礼讚ハ法然上人の初

子安樂といひける傍。經

又とあのりて造りては

らめにはり。そ。後。太。泰

善。観。房。と。い。ふ。傍。り。と

千。本。の。釋。迦。會。仏。ノ。文。承。の

十五。日。と。い。は。る。教。經。ノ。後。教。經。ノ。名。号。ヲ

とて琵琶とやよせらるにち^柱うのひもわたち

とまゝにひりてつきよとまよ。ある男れやよ

しとひとるもあぐ。古きひさく柄^{正琵琶ノ柱ヲカク}のま

どいつ^{兼母見}かた見れば。元とお^生じ

うり。琵琶とよひくたこ

そめらう法師れびえさ

ゆはにも及^{ラズ}ぬるやそよ

ひさの木のこやひいてよ。ぬものにもぞ。あま

けり。まき人のいぢのうもすくも。いさうく

るもあかり

よろづのよか^ハは段おのり段ヲ承テ若

キ人ハ美テウヲ敬ニ藝能アリトモ謙遜

スルヲヨントストノ教ナリ

て人^{不詳}とよび^{不詳}や^{不詳}。言葉とそれうんま

に^{不詳}くか^{不詳}ら^{不詳}よ^{不詳}ま^{不詳}人^{不詳}の^{不詳}こ^{不詳}う^{不詳}り^{不詳}し^{不詳}き^{不詳}の^{不詳}忘^{不詳}れ^{不詳}が^{不詳}

く^{不詳}あ^{不詳}ひ^{不詳}つ^{不詳}る^{不詳}あ^{不詳}物^{不詳}なり。あ^{不詳}の^{不詳}さ^{不詳}が^{不詳}は^{不詳}。ち^{不詳}れ^{不詳}る^{不詳}さ^{不詳}は^{不詳}よ^{不詳}

ま^{不詳}め^{不詳}さ^{不詳}よ^{不詳}あ^{不詳}え^{不詳}る^{不詳}ま^{不詳}き^{不詳}し^{不詳}て^{不詳}人^{不詳}が^{不詳}あ^{不詳}い^{不詳}り^{不詳}

に^{不詳}ま^{不詳}に^{不詳}あり

人の物^{不詳}が^{不詳}同^{不詳}う^{不詳}ら^{不詳}。ま^{不詳}き^{不詳}も^{不詳}あ^{不詳}る^{不詳}。あ^{不詳}り^{不詳}は^{不詳}

ひさく^{和名}和名^{秘曲}秘曲^{音酌}音酌^{和名}和名^水水^音音^{ナリ}ナリ
俗^{三柄}三柄^抄抄^トト^ニニ^字字^ニニ^字字^ニニ^誤誤^リリ^{ナリ}ナリ
元^をを^止止^ムム^ハハ^男男^ノノ^元元^長長^クク^生生^シシ^{タリ}タリ
扱^琴琴^ノノ^秘秘^曲曲^ヲヲ^傳傳^ヘヘ^{タル}タル^人人^ハハ^自自^元元^ヲヲ^引引^テテ^引引^トト^ナナ^シシ^テテ^上上^クク^ナナ^スス^ルル^元元^長長^ハハ^{琵琶}琵琶^ノノ^元元^ナナ^ハハ^{琵琶}琵琶^ハハ^元元^引引^クク^モモ^ノノ^元元^非非^ズズ^タタ^トト
又^此此^ノノ^{琵琶}琵琶^ヲヲ^引引^上上^テテ^座座^以以^テテ^引引^テテ^不不^レレ^テテ^{琵琶}琵琶^ハハ^樂樂^ノノ^元元^巴巴^ニニ^クク^ララ^アア^ハハ^汝汝^はは^モモ^不不^及及^ナナ^リリ^ナナ^リリ

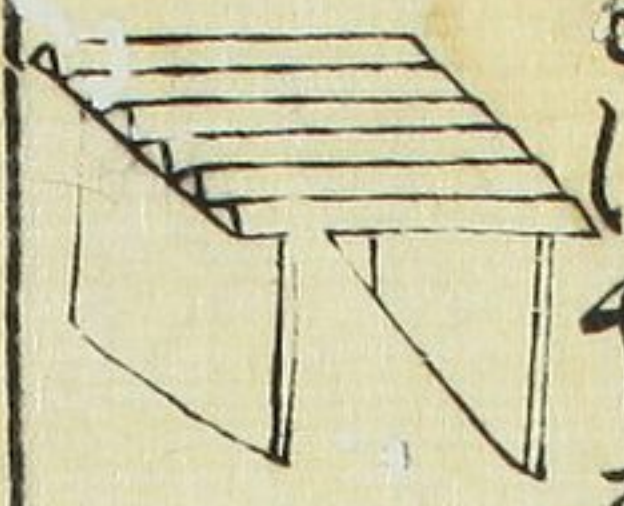
其^正正^{琵琶}琵琶^ノノ^柱柱^ヲヲ^カカ^クク^テテ^用用^シシ^モモ^ナナ^リリ
兼^母母^見見^ルル^ハハ^元元^トト^おお^じじ^トト^ナナ^リリ
其^正正^{琵琶}琵琶^ノノ^柱柱^ヲヲ^カカ^クク^テテ^用用^シシ^モモ^ナナ^リリ
兼^母母^見見^ルル^ハハ^元元^トト^おお^じじ^トト^ナナ^リリ

よろづのよか^ハは段おのり段ヲ承テ若
キ人ハ美テウヲ敬ニ藝能アリトモ謙遜
スルヲヨントストノ教ナリ

其^正正^{琵琶}琵琶^ノノ^柱柱^ヲヲ^カカ^クク^テテ^用用^シシ^モモ^ナナ^リリ
兼^母母^見見^ルル^ハハ^元元^トト^おお^じじ^トト^ナナ^リリ

ぬべき形カネしる神官シノとよびて。け侍社乃獅子あはぬ
てらまをさう。定てなうひあうらに作らんらとて
らざるやといまれられぬ。そのるるるるるるるるるるるる
らし乃侍りける奇怪キキもよ也とて。さうさうさうさうさう
らそとていよされも上人カネ乃感懐カネいづづらなる
よかり け段アメリ物ニカノ付心ラ保ル人ノ上ノ者ナリ

柳ヤナギ管ケよと申るものいよそてさぬよとてま。せりよ
るべきにや。奉物ホウモノちどいたてさぬにとまて。木のあ
らひより紙カミひよりをぬ
てゆひはく。視ミしたてぬ



柳若ノ番

柳ヤナギラ以テ此ノ所ノ物ヲスル所ナリ
硯短尺鞠冠又ハ追ヲ古ノ贈リ徑ナト
ヲスル物ナリ
又ノ重半ニ依テ舌齒ヲ別ツト也吉良ヲ
用ニ齒ニ重ヲ用トナリ
○此段故実ヲ記スナリ

よまうら筆フデころわらひ
と。三条右大臣ミヤはるはるまき
物モノお中ナカ小治コヂ乃家ノイの結ムスち

御隨身ミツケ 是ヨリ以下七ヶ条兼好自
侍シ侍シが友トモが自ミ償シとて七箇条シチカちとらるるる
あり。皆みなさるるるるるるるるるるるるるるるるる
しと思ひて自ミ償シるる七あり と友が自償トテモサセ九ノチキナクナト
メタハ兼好モ先例ヲ取テ記ストク

一人あまうつもて花ハナんあるまきしにカ寂サマ勝シヨウ光クワウ院イン乃ノも
まていよこれいよいよいよいよいよいよいよいよいよいよ
いよいよいよいよいよいよいよいよいよいよいよいよいよ

と堂位をくぐりくぐり作りと成らるる裏あ

久し。依程ちうかうかあるべしといひるる

に。裏へ塵つり。出乃業としていせげらるる

もこのらひて各尺作し。行成位署名字年号と

位署 姓名ノ上ニ官位ヲ書進メテ位署ト云フ

真りり

一形蘭陀寺に居る聖徳

美世り。八災といふると志し。おまわらるる

ハ災 憂苦喜樂尋伺出息入息是ヲハ災ト云 兼好

かといひ。不化されん

志 呼ラ能化ト云オ子ヲ不化ト云

さるる。内より

是といひ。かみれ。感一なり

賢助傍の 院三寶院也日野家ノ人此

一賢助傍正り

加持 香水 前記ニ九日七日ノ御修法

て加持香あり

ノ向 三度ノ加持アリハ佛ノ三密持ハ行者ノ三業也彼ノ三密ヲ此三業ニ持テ加

いまこそめわどに傍正

るりてゆ。陳乃介まで傍正

返してり。あはれ。回し。大前

て。えむらあわら。いひて。いと久し

し。あはれ。い。おまわら。い

し。あはれ。い。おまわら。い

二月十五日あるき。あはれ。あはれ

あはれ。あはれ。あはれ。あはれ

年ノ日月ニ海ノ花ナカリ、去々ニ...

キテタキテ三井テニミトノ...

ヲ皆御植ナリ

光ノ真ニ光源氏ノ朧月

五ノ凡ニ三ノイデイルヌラニ...

望月 易ノ豊卦ニ日月盈則言...

秋名日月ノ廟也、未則缺也、望月ノ満之...

心ニウメ人 古来日月ノ運行ニ息間...

王梅念ナキ六四ナカトスレ...

付又人ア、リ一夜ノ中ニ缺...

の海知いてん... 知人ノ分...

家ガガ海ノり... 老ハ呼東人ナト...

らんノ人...

望月ノま...

志ガ...

けガ...

乃中...

及ぬ...

何...

乃今ニ習ひて、生の中ニ...

一ノ心ニ修...

の事ニ...

急ニ悔て...

此ノ...

ひと...

と...

ま...

海...

如幻 金剛經 如夢幻泡影

忘想 三タリナルヲモヒトヨリ

忘心 彼ノ喜ヨシノ心ノ来リテ我ノ喜

シ礼ニ付ト知カハれツルヲモ成ベカラスナリ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

心ヲ忘ル。其ノ心ノ来リテ我ノ喜ニシテ

のよふふりてなりぬるなりと。又らふ。ふらふと
しめひけり。一乃佛のいふなるか佛のいふなりと
いふに父。空よりわりのらん。上よりわりのらん
いひてらる。同つる。目にてえらる。いひなり。ゆりつと
流人よかりて無り也

は段一部ノ巻軸上ハ心アル也夫レ道ノ至極ハ言語ニ不結辨文字ニ書ラ
ナラス自然ト以心付ルニテ先指モサナリ知リ尚ラ其ノ緒ヲ登ル人ニ工夫上ラハテ至道
ヲサトラシカニカニ暫ク記之ヲ一部ノ本意ヲ結ニタレ者ナラニ是レ引テ不空ノ謂ハ

徒然世子諺解卷五終

延寶五丁年九月吉辰

中村七兵衛板行

